

第1学年 図画工作科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業 I
 児童 1年4組 男子19名 女子16名 計35名
 指導者 藤原 由加

1 題材名 はこ かざるんるん (工作) 「せかいにひとつのたからばこ」

2 題材について

(1) 題材について

本題材は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の内容A表現(2)イ「好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。」ウ「身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。」及び共通事項「ア」「イ」を基に設定したものである。

空き箱を主材料として、箱の形や色、何を入れるかななどを基に飾り方を考えながら、箱を飾って楽しい入れ物をつくる活動である。箱に入れたい物も合わせて考えることで、飾り付けの発想を広げたり、自分なりの思いをもって楽しみながら飾り付けをしたりすることができると考える。また、自分のつくった箱を使うことの楽しさや喜びも感じさせたい。

(2) 児童について

1学期に「チョキチョキかざり」では、紙を折ったり重ねたりしてはさみで切り、試しながらいろいろな形の楽しい飾りをつくる活動を行った。「おってたてたら」では、紙を折って立てる活動を通して「わくわくなかよしランド」にあったらいいなと思うものを考え、折り方や切り方を工夫してつくる活動を行った。

これらの題材を通して、紙(折り紙、画用紙、デザインペーパー)をはさみで切ることやのりで貼ることを経験してきている。その扱い方には個人差があり、自分の思うようにできない児童が見られる。図工の時間を楽しみにしている児童が多いが、つくりたいものをなかなか思い付くことができなかつたり、すぐに「できた。」と関心・意欲が続かなかつたりする児童も見られる。

そこで、本題材では、はさみの使い方、材料にあったのりやボンドでの接着の仕方にさらに慣れるようにしたい。また、「こんな箱にしたい」という自分の思いをもち、飾りの形や色を考えて試しながら、楽しく活動できるようにしたい。

(3) 指導にあたって

本題材の主材料にあたる箱に関心をもち、いろいろな形や色の箱があることに気付くために、事前に行う「いろいろなはこから」(造形遊び)で、身の周りの空き箱を集めておき、箱を並べたり積んだりする活動を通して、箱に十分親しませておきたい。

本題材の「見通す」活動では、箱を飾って宝箱をつくるという完成のイメージを具体的にもち、活動意欲を喚起させたい。また、用具や材料の扱い方については、課題解決に必要なことの提示や安全面についての指導を行い、児童が試行錯誤しながら慣れることができるように支援したい。「振り返る」活動では、作品を見せ合い、自分が感じたことを話したり友達の話の聞いたりしながら、飾り方の面白さ・きれいさ・楽しさに気づき、「こんな飾りを付けたい」「こんな箱にしたい」など、次の活動につなげていきたい。

3 題材の目標

- 空き箱を飾って、世界に一つしかない自分だけの楽しい入れ物をつくることを楽しもうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 空き箱の形や色、何を入れるかななどを基に、箱にどんな飾りをどのように付けるか考えることができる。 【発想や構想の能力】
- 手を働かせて材料や用具を使いながら、箱の使い方や飾り方などを工夫することができる。 【創造的な技能】
- 自分が感じたことを話したり、友達の話の聞いたりしながら、箱の飾り方の面白さや楽しさに気付くことができる。 【鑑賞の能力】

共通事項

- ア 箱を飾る活動を通して、材料の形や色などをとらえること。
- イ 箱や材料の形や色などを基に、自分なりのイメージをもつこと。

4 指導計画 (はこ かざるんるん：4時間扱い 本時 2/4)

次	時間	学 習 活 動
一	1	どのような箱にしたいか考える。
二	2	どんな飾りをどのように付けるか考えながら、箱に飾り付けをする。 (本時第1時)
三	1	自分や友達のできた箱を見ながら、入れる物を紹介し合ったり、飾りの面白さや楽しさなど気付いたことを発表し合ったりする。

5 本時の指導について

(1) 目標

空き箱の形や色、何を入れるかななどを基に、どんな飾りをどのように付けるか考えながら、飾りの形や色、飾り方を工夫してつくる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
発想や構想の能力	空き箱の形や色、何を入れるかなどを基に、箱にどんな飾りをどのように付けるか考えている。	どんな箱にしたいのか共感的に会話し、完成のイメージを具体的にさせる。友達の作品を参考にさせる。
創造的な技能	手を働かせて材料や用具を使いながら、箱の飾り方などを工夫している。	はさみの使い方や材料に合った接着の仕方を指導する。
鑑賞	友達と飾った箱を見せ合ったり、友達の話を聞いたりして、箱の飾り方の面白さや楽しさ、工夫に気付いている。	ペア学習や交流の場を設ける。楽しい飾りや面白い飾りを紹介する。

(3) 指導の構想

展開時の見通す活動で、本時の課題の「かざりをくふうして」とは飾りの何を工夫すればいいのか、「材料・形・色・飾り方」の視点を確認し、課題解決のための見通しをもたせる。終末時の振り返る活動では、二次2時間扱いの箱に飾り付けをする活動の第1時であるため、次時の活動につながるように、自他の作品や活動のよさに気付かせる。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入	1. 前時の学習を想起する。	全	○何を入りたいか、どんな箱をつくりたいか考えたことを想起させる。
	2. 本時の課題を確認する。		
5分	かざりをくふうして、せかいにひとつのたからばこをつくろう。		
展開	3. 飾り付けを工夫するための見通しをもつ。	全	☆何を工夫すれば良いか、見通しをもたせる。 飾りの材料・形・色・飾り方の視点 ○のりとボンドの使い分けや接着の仕方について指導する。 ○はさみの安全な使い方について確認する。 ○ふたがある箱は、飾り付ける場所に気を付けることを確認する。
	4. どんな飾りをどのようにつけるか考えながら箱に飾り付けをする。	個	○飾り付けが進まない児童については、何を入りたいのか、どんな宝箱にしたいのか、共感的に会話し、イメージを具体的にさせる。 ○友達の飾り付けを紹介し、参考にさせる。 ○飾りを貼り付ける前に、箱に並べて試してみることを助言する。 ○飾り付けを試しながらできるように、材料コーナーを準備する。 ○飾り付けの材料コーナーは、使用する接着剤でおおまかに分けて置き、接着の仕方の参考とさせる。 ○用具の使い方について、個に応じて指導する。 ●【発想や構想の能力】 空き箱の形や色、何を入れるかなどを基に、箱にどんな飾りをどのように付けるかを考えている。 (観察・作品・対話) ●【創造的な技能】 手を働かせて材料や用具を使いながら、箱の飾り方などを工夫している。(観察・作品)
30分			
終末	5. 本時の振り返りをする。 ・自分の作品や友達の作品を見て、活動を振り返る。	ペア	☆飾り付けで工夫したところや良い所を紹介し合わせ、次時への意欲へとつなげていく。
	私は、ここの飾りの(材料・形・色・飾り方)を～にして宝箱をつくりました。		
10分	6. 次時の学習内容を知る。	全	●【鑑賞】 友達と飾った箱を見せ合ったり、友達の話を聞いたりして、箱の飾り方の面白さや楽しさ、工夫に気付いている。(発言・挙手) ○次時にも飾り付けをし、宝箱を仕上げることを知らせる。